

# 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道180号 総社・一宮バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局	
起終点	自：岡山県岡山市植津 至：岡山県総社市井尻野				延長	15.9km	
<b>事業概要</b> 一般国道180号は、岡山市から松江市へ至る延長約170kmの主要幹線道路である。 総社・一宮バイパスは、岡山市北西部・総社市における一般国道180号の混雑緩和・交通安全の確保および沿線環境の改善等を目的とした、延長15.9kmの道路である。							
S48年度事業化		S63年度都市計画決定		H元年度用地着手	H元年度工事着手		
全体事業費		約530億円		事業進捗率	20% 供用済延長 3.4km		
計画交通量		11,800 ~ 32,700 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.7	総費用 (事業)/ (事業全体)	304 / 464 億円		総便益 (残事業)/ (事業全体)	776 / 779 億円
	(残事業)	2.6	事業費	: 283 / 437億円		走行時間短縮便益	: 624 / 635億円
			維持管理費	: 21 / 27億円		走行経費減少便益	: 92 / 83億円
						交通事故減少便益	: 61 / 60億円
<b>感度分析の結果</b> 残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=2.9 (交通量+10%) B/C=2.3 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C=2.3 (事業費+10%) B/C=2.8 (事業費-10%)							
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間が削減される） ・安全で安心できる暮らしの確保（岡山赤十字病院までの所要時間短縮） 他18項目に該当							
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 岡山市北西部・総社市中心部への通過交通流入が抑制され、交通の円滑化が図られるとともに沿道環境が改善し、市民生活の快適化と中心市街地の活性化が期待されており、岡山市をはじめとする関係4市の首長等で構成される一般国道180号岡山県整備推進期成会より早期整備の要望を受けている。							
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 団地開発、県立大学設立並びに山陽自動車道や中国横断自動車道の開通などによる交通量の増加により、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。							
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成19年度末で用地買収は20%完了しており、現在までに岡山市門前～総社市総社までの3.4kmが供用済み。							
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 投資効果の早期発現を図るため、段階的に整備しており、残る区間についても早期供用を目指し、事業を推進する。							
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 建設発生土の有効利用や建設副産物の発生抑制によりコスト縮減を図っている。							
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。